

ご意見、ご感想は〒530-8251 毎日新聞「プラスα面健康・医療」係。ファクス(06・6346・8228)、メール(o.iryuu.hotline@mainichi.co.jp)へ。

おおさか発・プラスアルファ

からだ
向き
合
コン



河村歯科医院
(大阪市中央区高麗橋)
院長 河村達也



かわむら・たつや 84年岐阜歯科大学(現・朝日大学歯学部)卒業、89年大阪歯科大学大学院修了。専攻は歯科補綴学。日本補綴歯科学会専門医。名古屋大学・大阪歯科大学などの臨床講師。大阪インプラント再生医療センター(<http://www.kawamura-dental.com/>)センター長。

インプラント 入れ歯の欠点補う治療法

おいしく食事をしたり、カラオケや会話を楽しんだり、人生を有意義に過ごす上で「口の健康」は大きな役割を果たします。口は摂食を行う器官として重要であるのみならず、呼吸や発音など多くの機能を有しています。歯を失うとこれらの機能が損なわれ、生活の質(QOL)の著しい低下に加え、コミュニケーションの低下に伴う精神的苦痛をも伴うこととなります。これから5回にわたり最新の補綴治療法として注目されるインプラント治療についてお話しします。

寄りの多くが失った歯に代わる人工の補綴物を使用して口腔の機能を維持していると考えられます。入れ歯は失った歯の本数にかかわらず比較的短期間で治療ができる、代表的な歯牙欠損補綴法ですが、江戸時代と現在の入れ歯を比較しても形態の違いはほとんどなく、今以上の医学的進歩はあまり望めません。また、機能的にも天然歯の3割程度しか噛む力を発揮できないことや、入れ

介されて二十数年がたちましたが、臨床的に一般化したのはここ数年のことです。これはインプラント材料が進歩し治療術式も改善され、安全で効果的な治療法となったためです。しかし、入れ歯と大きく異なる点は、インプラントを顎の骨に埋め込む手術が必要で、手術に際しては神経の麻

骨に埋め込む手術必要

05年の厚生労働省歯科疾患実態調査によると、65〜69歳の日本人の平均現在歯数は18.3本と報告されており、70〜74歳ではさらに減少し、すべて歯があった時の半分程度の15.2本しか残っていないと報告されています。日本人男性の平均寿命が79歳、女性が86歳であることから、お年

痺や血管の損傷、感染などのリスクを伴うこともあり、安全な施術には歯科医の専門的技術と手術室などの清潔な施設環境が求められることです。

また、入れ歯では顎の骨に力が伝わりにくくなるため、次第に顎の骨はやせていきまくなり、定期的な新調する必要が生じます。さらに入れ歯は大きな床を有するため異物感も大きく、発音がしにくい、おいがするなどといった日常生活への支障も少なくありません。

またいったん埋め込まれたインプラントは顎の骨と強固に接合するため、インプラントの埋め込み手術後に位置や方向を変えることは不可能で、個々の患者さんに最適な歯を入れるためには、手術に先立つ慎重な診査と診断が必要です。そして術後も定期的な清掃や噛み合わせの調整などを続けることが重要です。

インプラント治療の模式図



このような入れ歯の欠点を補える補綴治療として急速に普及しているのがインプラント治療です。現在主流のチタン製インプラントが日本に紹

次回は最新の術前診査、最適な補綴設計のための診断と治療計画をご紹介します。